



直方南小学校だより

令和7年6月16日(月)

直方市立直方南小学校

No.9 校長 塩田 朋久

直方南小学校のあゆみ③ ～旌表旗(せいひょうき)授与～

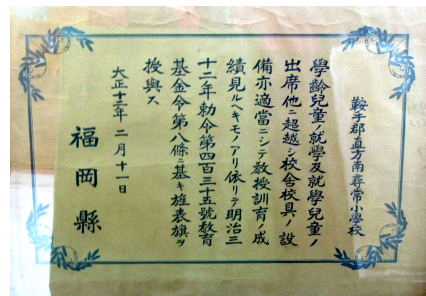
1901年(明治34年)から1945年(昭和20年)までの間、福岡県は独自の「旌表旗学校」の制度を設けていました。これは、「児童の出席率、設備のよさ、授業技術の高さ、子どもの成績」などが評価の基準となり、多くの学校がこの旌表旗学校をめざして頑張っていたようです。

本校は、その旌表旗を1923年(大正12年)2月11日に授与されました。直方でこの名誉ある旌表旗を授与されたのは、直方北小・新入小・直方南小の3校です。当時は先に直方北小学校が授与されていたので、南小は校長をはじめ、職員が一丸となって「北小に追いつけ追い越せ」という考えで取り組んでいたそうです。

夏季臨海学校

1924年(大正13年)から臨海学校が始まりました(～昭和16年まで)。夏休みに入ると4年生～6年生が1週間、芦屋町の大願寺で海浜における団体訓練をします。

これは、学校としては大行事で、保護者に安心してもらうために、当時の「筑豊新聞」に毎日の様子を投稿して関係者に読んでもらっていました(今でいうSNSと同じですね)。



活動内容は、学習、海水浴、昼寝、自由時間が毎日のことで、他に、奉仕作業、神社参拝、展覧会、競泳、学芸会(出し物)などでした。臨海学校についての作文を紹介します。

【名残おいしい海】6年 女子

ああトウトウ日も過ぎてしまった、今まで楽しかった臨海学校は後一日となってしまった。なつかしいお父様お母様に会うのはうれしいけれど此の一週間面白かった海

お寺の本堂の前で(すごい人数!)

にサヨナラするのはいやでした。青い海それから白い砂、大きな波、今考へて見れば皆楽しいものばかりでした。～中略～ 一週間少しのわざわいもなく、すこやかに暮し得た事もうれしく思います。(百年史の記述どおり)

今では考えられない大行事ですね。でも、きっと、学校生活の中でも一番の思い出だったことでしょう。(つづく)